

スマートウェイ推進会議 議事概要

1. 開催日時・場所

日時：平成16年7月27日（火） 10:00～12:00

場所：国土交通省 特別会議室（合同庁舎3号館 11階特別会議室）

2. 出席者（敬称略）

豊田委員長、安藤（代）、岩貞、梅田、川嶋、清原、小枝（代）、児玉
坂内、立川、戸澤、永塚（代）、室城、廻、森地

代理出席の委員は（代）と標記

3. 主な意見等

- ・ 共通基盤はITS発展のうえで大変重要である。
- ・ 作業部会設置は、提言を具体的に実行する上で重要。
- ・ 具体的なマスタープランの策定とともに、パイロット事業の推進が望まれる。
- ・ 産学官が持続的な議論を出来る場が求められる。
- ・ 産官学・省庁・自治体間で連携し、ユーザーの声を取り入れた実施を望む。
- ・ 様々な高度化する通信・放送メディアを利用して、ユビキタス環境に対応したITSを推進していくことは、非常に重要なことである。
- ・ 規格・仕様については国際標準化の検討をすべき。
- ・ 安全安心対策は非常に重要にとりくみ。警察としても一般道を中心に安全安心のための情報提供を実施するとともに、各省庁との連携を一層密にしていきたい。
- ・ 車と車間の安全をもとに、人と車の間の安全についても検討が必要。
- ・ 利用者・市民の視点を十分に考慮して引き続き検討願いたい。
- ・ 民の関わり方については、産業・技術グループである民とユーザーである民の両面からのアプローチが必要。
- ・ 作業部会では、詳細なスケジュールを立てて検討されることを望む。
- ・ ITSによる負の部分、どうカバーするのも重要である。
- ・ 様々な情報通信メディアを有機的に連携させ、規格を定めていくべきである。
- ・ ITSサービスで何が変わるのか、2007年という具体の年次目標をもって、ユーザーにわかりやすい形でPRしていくべきである。
- ・ 高速道路利用者以外でも恩恵を得られるようなサービスがほしい。
- ・ 10年先のITS社会を考慮して、既存システムのインテグレートも重要。
- ・ 産学官・自治体・省庁間等、具体的に何を連携するのか、明確にしてほしい。
- ・ セカンドステージに入り、省庁連携により初めて施策が実現するという段階になった。セカンドステージのスタート台とすべく、目に見える連携をしていきたい。
- ・ 安全性の向上にあたっては、車単独の取り組みのみならず、道路との協調も含め、積極的に推進していきたい。
- ・ 電波利用料の徴収拡大がITS推進の障害とならないよう、ETC車載器は引き続き対象外としたい。